

越嶺会報

令和5年(2023年)12月10日

第95号

発行 越嶺会本部

〒930-8555(富山市五福3190)

富山大学経済学部内

☎(076)445-6411(ダイヤルイン)

Fax(076)445-6419

郵便振替 00710-9-14562

メールアドレス etsurei@eco.u-toyama.ac.jp

越嶺会ホームページ

越嶺会http://www.etsurei@eco.u-toyama.ac.jp/e
3-u-toyama.ac.jp/e
tsurei/えつれいかい
富山大学経済学部内



富山大学経済学部(旧高岡高商)創立100周年

記念事業募金に、ご協力ありがとうございます。

すでに送金いただいた方にも、振込用紙を入れてあります。

周りの方にお勧めください。

また、積み増しいただければ幸甚に存じます。

100周年記念大会

2024(令和6)年10月13日(日) 式典、学生発表など、祝賀会

14日(月・祝) ゴルフ大会、バスツアー

目次

第1部	100周年記念事業について(寄付者芳名録、実行委員お名前一覧ほか)	
第2部	越嶺随想 翻訳本を読み比べる愉しみ(3) 杉浦吉治(学部14回)	12頁
	母校だより	13頁
	教員の異動 訃報、新任、退職、転出	
	学生の活動	
	越嶺会総会報告 決算・予算	14頁
	各支部だより 石川、東海、関東、福井、東北、越嶺会グリーン会、越嶺一四会	17頁
	会員広場 竹澤喜孝氏(22回)、増井秀次氏(26回)、重原佐千子さん(54回)	22頁
	体育会ヨット部への支援のお願い	
	会員の訃報 武暢夫先生お別れの会	24頁
	第16回ホームカミングデー	25頁
	富山大学基金だより(第22号 2023.11.1発行)	26頁
	住所変更等をお知らせください	28頁

一〇〇周年記念事業募金の御礼とお願い

次世代に繋ぐための
さらなる結束を

越嶺会会長 伍嶋 二美男

越嶺会は、令和六年九月に旧高岡高商の設立から数えて創立百周年の大きな節目を迎えることとなります。会員の皆様にはこれまで長きにわたり、本会の円滑な事業運営に格別のご理解、ご支援をいただき深く感謝申し上げます。

来る百周年は、改めて越嶺会の立ち位置を考えるうえで貴重な機会となりますが、国内外の様々な分野で活躍する有為な人材養成の役割については、引き続き、越嶺会として担うこととし、支援体制を構築していくことが求められております。

このため、来年度以降の主な事業活動では、まずは、①越嶺会を心の拠り所の一つとして大切に思っていただけのように、現役学生を含む会員相互の距離を縮めるための諸環境を整備すること、また、②社会経済環境が激変する中においても、新たな価値創造に果敢にチャレンジして地域社会に貢献していく人材育成への支援に努めてまいりたいと思っております。

本年二月に募金部会や式典・祝賀部会などからなる実行

委員会を発足させて以来、記念大会や各事業の実施に向けて検討を進めておりますが、特に人材育成事業については準備の整ったものから順次、試行を重ねながら取組みを進めていくこととしております。

今後とも関係者のニーズを踏まえつつ、また、会員の皆様のご協力を得ながら一体となつて取り組み、来秋の記念式典等を最高の笑顔で迎えたいと切に願っております。

なお、記念大会については現役学生及びOB会員の皆さんの活発な交流が図られるよう工夫を凝らした計画を進めているところであります。

また、こうした事業を進めるため、本年三月から受入開始いたしました寄附金につきまして、多くの会員からご芳志をいただいていることに対しまして、この場をお借りして深甚なる感謝を申し上げます。

今後とも、記念事業の進捗状況について越嶺会のホームページ等で随時お知らせをまいりますので、事業の財源となる寄附金の確保を含め、さらなるご協力を賜りますようお願いいたします。

会員の皆様には、機運醸成を図るため、是非、同学年の方をはじめとして、ゼミ卒業生、サークルなど他のOB会員の皆さんと連絡をとりながら、「越嶺会百周年を富山の地で祝おう。」とお声がけいただきますようお願い申し上げます。

今後とも、越嶺会が心温まるエコシステムとして永続しますこと、そのための会員の皆様によるさらなる結束が高まることを念願してご挨拶いたします。

十回										九回									
富崎	杉政	篠田	佐橋	金田	太田	上田	山村	室橋外	本江	幅	中	高木	匿名	重田	松山	長谷川	西倉	中尾	多島
和男	靖雄	勉	守	克清	龍也	忠男	幸男	茂男	繁鶴	起夫	修司	敏男	非表示	直孝	俊三	隆造	修	哲雄	正明
一万	五千	五千	一万	一万	非表示	一万	一万	一万	一万	一万	一万	一万	非表示	一万	二万	一万	五万	一〇〇万	二万
十三回										十二回									
金山	五十嵐	柳原	柳澤	藤田	七山	永井喜	瀧脇	素野	小橋	河原	上野	飯田	松野	松田	藤田	匿名	塚	高橋	島田
満	勇一	紀一	一朗	勇	政廣	一郎	通康	義博	啓一	義一	一美	捷政	健作	邦雄	長悦	光雄	邦文	邦文	誠二
五千	三万	二万	五千	一万	二万	非表示	五千	一万	非表示	五千	二万五千	五千	一万	二万	三万	非表示	非表示	五千	一万
										十四回									
杉田	杉浦	下平	小林	熊谷	片岡	岡田	梯	岡田	学部	横井	行本	山本	宮森	松本	博多	西田	中村	富田	谷垣
征司	吉治	邦弘	和夫	隆夫	英夫	一紀	左武良	茂	一回一六五三〇	義則	達男	修三	紀好	浩	義雄	達弘	稔	勇夫	喜博
一万	二万	一万	一万	非表示	二万	一万	一万	五万	一〇万	一万	二万	非表示	二万	二万	一〇万	五千	四千	一万	非表示
										十五回									
中澤	清水	重久	小杉	入江	今井	東	渡邊	渡辺	四津井	宮坂	南	水野	松井	細木	藤村	藤岡	福田	中山	中土
邦雄	忠勝	修造	正義	鐵夫	松男	勲	慶孝	勝海	宏至	頷一	章	俊雄	三郎	文夫	亘	正紀	隆一	武夫	盛曠
九千	五千	非表示	五千	二万	二万	一万	三万	一万	非表示	一万	一万	二万	二万	二万	一万	一万	一万	一万	三千

十六回										十七回																																																																		
子吉	重信	一万	林	茂春	非表示	松井	信夫	二万	森川	勝彦	五千	浅井	育弘	二万	匿名	非表示	久郷	隆行	二万	小西	由郎	二万	瀬筒	澄博	二万	田上	一夫	一〇万	太茂	野洋	一万	渡久山	楯	非表示	早川	正敏	二万	堀	道彦	二万	蜜澤	有二	五千	蓑	國夫	二万	若山	昌毅	二万	磯井	幹彦	非表示	上埜	進	一〇万	大坪	登喜雄	一万	兼松	稔	非表示	川嶋	隆志	一万	黒田	宣夫	一万	呉座谷孝一	一万	佐野	憲正	非表示	篠田	政治	一万	
十八回										十九回										二十回										二二回										二三回																																				
高田	幹夫	一万	田中	政彦	五千	殿村	和敏	一万	中西	誠一	一万	西坂	緑郎	二万	稲村	敏夫	二万	佐々木俊夫	非表示	島田	重夫	一万	富田大三郎	一万	鳥本	昌弘	一万	中岡	哲男	非表示	野村	邦雄	一万	浜松	政俊	一万	般若	義一	一万	日出島恒夫	非表示	二口	孝志	六千	古田	俊吉	二万	盆下登美雄	一万	宮地	秀明	非表示	吉國	睦治	三万	今井	修一	三万	奥	清一	非表示	金森喜久男	一万	後藤	健次	二万	島津	一夫	二万	高田	真悟	二万				
田辺	知昭	二万	田畑	敏美	二万	西堀喜久夫	非表示	能町	誠一	四万	福田	幸進	二万	藤田	龍造	一万	松田	弘之	非表示	山下	寛	非表示	上田	敏裕	一万	大谷	忠久	一万	小野	崇	二万	櫻坂	篤夫	非表示	加藤	博祥	一万	関井	哲仁	五千	寺林	敏	三万	舟木	幸雄	三万	堀切	実	五万	森下	俊夫	一万	森田	博	一万	吉谷	知二	非表示	浦本	寛	二万	小竹	茂樹	三万	角出	憲明	一万	釜谷	春雄	八万	澤合	文雄	二万	谷	和夫	二万
橋本	洋二	一〇〇万	橋本	良平	二万	米原	俊孝	一五万	浅野	好生	非表示	穴田	茂	一〇〇万	石田	聡	非表示	梅本	清一	三万	往蔵	龍夫	二万	帶原	隆	二万	上條	光信	二万	川畑	滋樹	五千	杉森	聡	二万	竹澤	喜孝	二万	千葉	茂幸	二万	寺田	登	一万	中坪	達哉	二万	中村	昌弘	三万	北国	正則	二万	堀	雄一	一万	榎	春夫	一〇万	松井	清信	非表示	三宅	博	一〇万	森田	守保	一万	安田	隆	五千	石原	昇治	二万	匿名	非表示

二六回	五十嵐 修	森高 寿正	村山 修	匿名	橋本 泰	布目 大剛	吉川 倫子	加須榮徹朗	石川 富弘	飯塚 修	荒田 一成	麻生 郁彦	藤田 龍造	匿名	田中 久夫	庄司 美次	毛利 彰	南 毅之	松本 敏郎	松下 勝見	松尾 博文	平方 睦男	樋口 高利	橋本 邦雄	名小路朝雄	清水 修
	二万	一万	三万	非表示	五千	五万	一万	二万	一万	五万	非表示	五千	一万	非表示	二万	非表示	一万	二万	一万	二万	二万	二万	一万	一万	一万	一万

二七回	長瀬 稔明	常本 悟	曾我 教夫	木村 正明	川瀬 基裕	大野 泰典	大野 昌伸	岩見登志久	岩垣 誠	伊田 知弘	持田 寛	皆川 藤夫	増井 秀次	堀田 正之	細川 茂	沼田 穂積	匿名	高田 昇	鈴木 昭一	柴田 清	川端 文夫	金田 弥之	金武 和宏	奥田 泰三	内山 尚秀	伊藤 恒俊
	一万	二万	一万	二万	二万	二万	非表示	一万	非表示	二万	非表示	一万	一万	一五万	一万	五万	非表示	一万	一万	一万	五千	一万	一万	一万	一万	一万

二八回	細川 俊治	福井 直樹	鶴瀬 初弘	鈴木 政司	黒河 勉	川崎 龍弘	梶井 昇	山本 英博	山田 和宏	古岡 雅弘	原馬 宏之	濱田 博一	辻 年男	杉野 武義	乙部 昭広	奥村 健一	海野 等	芦田 静男	和多利隆之	山元 秀一	前田 昭夫	平工 信雄	林 正人	林 茂美	馬場 幸博	永田 芳久
	五千	三万	三万	一万	一万	一万	五万	二万	一万	五千	一万	一万	一万	三万	非表示	一万	一万	一万	非表示	一万	一万	一万	二万	一万	二万	二万

三〇回	舟崎 友晶	中村 哲広	篠原 義明	境 博紀	匿名	匿名	岩瀬 正昭	匿名	本田 豊	広田 隆博	野村 豊秋	野路耕三・都	中根 登	長坂 保彦	寺西 裕行	杉村 裕之	伍嶋二美男	桑原 幹也	京田 武彦	乙部 寿範	脇田 守男	山城 卓三	柳 勝彦	匿名	松島 義彦	堀 孝雄
	一〇万	二万	三万	一万	非表示	非表示	二万	非表示	一万	一万	二万	四万	一万	二万	二万	一万	三〇万	五万	非表示	二万	一万	一万	二万	非表示	五千	五千

三一回

三四回	渥美 真一	二万											三三回		石井 幸治	五万	綿木美和子	二万	横尾 進	一万	細川 勉	二万																														
	横田 謙治	一万	福田 直之	二万	中本 秀史	二万	寺西 一彦	一万	田中 博明	非表示	田中 新助	三万五千	佐藤 徹	二万	坂田 昌弘	一万	北越 浩和	二万	小野寺隆人	一万	油谷 浩	二万	山本 康二	一万	森山 徹	一万	森永 利宏	二万	松井 康浩	二万	福田 哲也	非表示	長谷川純一	非表示	寺松 信宏	二万	津幡 悟	五千	竹野 博和	一〇万	加藤 俊一	非表示	三二回	三井 幸治	五万	加藤 俊一	非表示					
三七回	酒井 誠	非表示	山内 聖一	一万	村田 勇一	二万	三井 麻美	一万	中野 岳	一万	高木 洋	一万	川端 宏典	二万	匿名	非表示	清水 豊	一万	大橋 永幸	一万	太田 靖一	二万	山瀬 孝	八万	森山 真人	二万	丸杉 輝	三万	松本 智弘	四万	松本 晃司	一万	松代 憲和	二万	土屋 誠	五万	棚瀬 重雄	非表示	田中 聡	二万	館 秀秋	一万	畠田 靖士	非表示	小林 敦	二万	尾関 佳子	一万	奥井 智保	非表示	大塚 実	二万
					四一回	神保 州広	二万	吉住美弥子	非表示	三原奈緒子	一万	南 和花	一万	肥田真理子	非表示	林 正崇	一万	沼田 孝正	一万	重原 孝春	二万	北 茂正	一万	亀永 辰之	二万	匿名	非表示	四日 努	非表示	匿名	非表示	二口 洋	三万	西井由美子	二万	黒川 央	二万	大波加 肇	三万	岩村孝範・昌代	一万	山田 毅幸	非表示	宮田 玲	五万	常盤 典靖	十万	谷畑 滋英	二万	関原 説朗	二万	関戸 浩一
五九回	川口 彰悦	一万	村外 拓也	一万	網島ゆり子	一万	高瀬 広敏	一万	重原佐千子	三万	美谷美智子	一万	西 晴子	五千	吉崎 智弥	五千	沢田 将稔	一万	中島 優子	一万	沖 よし子	一〇〇万	矢野 靖幸	一万	宮田 昌英	一万	倉地 博之	二万	小川 哲治	一万	森田 政男	五千	石井由紀子	五千	新川 兼史	二万	齐藤 学	二万	若林 和美	一万	土本 賢	一万	天野 裕代	一万	匿名	非表示	東田 勇秀	二万	本田 泰郎	三万	匿名	非表示

短大		六一回	梶尾 寛子	五千	六回	大垣 輝夫	一万
		六五回	鈴木 宏昌	五千	大垣	輝夫	一万
		六六回	匿名	非表示	匿名	輝夫	非表示
		六八回	大村 京可	一万	八回	山崎 弘之	一万
		七〇回	徳永 恵一	五千	九回	河瀬 和文	五千
		七一回	小倉 彰悟	非表示	十回	安倍 清	二万
特別会員		匿名	非表示	十一回	時沢 信行	一万	
		香川 孝三	非表示	十二回	北林 恒好	五千	
		武 暢夫	二〇万	十三回	重松 文治	一万	
		武井 勲	非表示	十四回	古田 暉彦	二万	
		谷川 裕子	一万	十五回	嶋田 茂晴	一万	
		二回	喜夫	十六回	中田 勇	一万	
		稲垣 實	一万	十七回	津本 虎雄	五千	
		林 貞昭	一万	十八回	松下 外史	三万	
		三回	邦夫	十九回	松野 優	五千	
		新開 実	五千	二十回	浦田 竹昭	一万	
		高田 政公	三万	二一回	栃折 卓志	一万	
		寺田 秀雄	一万	二二回	吉川 正恒	五千	
		吉崎 正二	五千	二四回	村井美貴子	五千	
		四回	水馬 正和	二六回	山崎 宗良	一万	
		五回	稲垣 寛	三〇回	匿名	非表示	
		立田 征夫	一万	田形 雅敏	十万		
		檀崎 進	一万				

富山大学経済学部(旧高岡高商) 創立一〇〇周年記念事業

1 基本方針(要旨)

富山大学経済学部創立一〇〇周年の大きな節目を迎えるにあたり、創立五〇周年から実施された各記念事業の内容を踏まえつつ、母校である富山大学経済学部のさらなる発展に向けて、同窓生の連帯を強めるための事業を展開する。多様な能力を活かしながら新たな付加価値を創造し果敢に未来を切り拓いていく人材がこれまで以上に求められることから、越嶺会としてその担い手の育成に向けて重点的な支援に取り組むものとする。

2 記念事業

◇ 記念大会等の開催 二〇二四年(令和六年)十月十三日(日)

◇ 記念式典、講演会、ゼミ発表会※午前十時〜十二時

◇ 会場 「オーバードホール」

◇ 祝賀会 午後一時〜三時三十分

◇ 会場 「オーक्सカナルパークホテル」

※ 現役学生に対する参加呼びかけ

(学生参加行事の検討…ゼミ活動発表会等)

□併せて、同期会・ゼミOB会、ゴルフ大会、所縁の地を巡るバスツアーを実施する。

(2)「新たな価値創造にチャレンジする人材育成」に向けた支援

- ①越嶺会会員が講師等となる「寄附講座の開設」
②スタートアップ（起業・創業）に向けた機運醸成
③環境整備 ※各事業の実施決定は、別途、寄附総額等を踏まえて再検討する。

- ①「経済学部棟講義室の改修」
②「70周年記念事業による学部棟周辺緑地等の補修整備」
③経済学部棟内での「OBサロン」の設置
④「経済学部特別史料室」及び「大熊信行文庫」の充実
⑤「経済学部100年史」の発行
⑥「経済学部100周年記念 会員名簿」の発行

3 事業費を計上する記念事業

- (1)記念大会等の開催
(2)経済学部棟講義室の改修
(3)学部棟周辺緑地等の補修整備
(4)OBサロンの設置
(5)人材育成事業
(6)経済学部100年史の発刊
(7)経済学部100周年記念会員名簿（別途、購入者負担）
(8)事務局経費

4 募金について

- (1) 募金方法
①募金は、分割も可とし、毎回の会報送付時に振込用紙を全員に同封。（周囲の会員に勧めてもらうためにも。）
②越嶺会報に寄付者名簿を掲載（募金者名の掲載につい

ての意向を確認のうえ対応。匿名・金額非表示など）

- (2)募金の振込先は左記のとおり。いずれも口座名「越嶺会」

郵便局 00710119114562

北陸銀行五福支店 普通1001220

富山銀行五福支店 普通0313728

富山第一銀行五福支店 普通006156

富山信用金庫五福支店 普通0015639

- (3) 募金基準額

■一口 五千円。基準額として、卒業年次別の募金要請口数を設定する。

A 高商、学部一〇二回 基準を設けず

B 学部一三〇二二回 現七〇歳代で2口以上

C 学部二三〇三二回 現六〇歳代で2口以上
(できれば4口以上)

D 学部三三〇四二回 現五〇歳代で2口以上
(できれば4口以上)

E 学部四三〇五二回 現四〇歳代で2口以上
(できれば4口以上)

F 学部五三〇六二回 現三〇歳代で2口以上

G 学部六三〇七二回 現二〇歳代で1口以上

H 短期大学部、院修了生

右記該当年齢区分に準じて1口（五千円）以上

法人への募金要請額 一口 五万円

法人への募金要請額 一口 五万円

法人への募金要請額 一口 五万円

法人への募金要請額 一口 五万円

卒回	卒年	お名前 (ゼミ名)	卒回	卒年	お名前 (ゼミ名)
		竹田 達矢 (吉原)	57回	H21(2009)卒	道林 達也 (中村)
		殿村 幸子 (佐藤)	58回	H22(2010)卒	福田 純子 (宮井)
		大波加 肇 (相沢)	59回	H23(2011)卒	川口 彰悦 (石田)
		五島 直樹 (萩野)			黒川 美恵 (松井)
		高木 雅弘 (古田)			園部 佑樹 (本間)
		二口 洋 (日水)	60回	H24(2012)卒	
	新任	山崎 努 (武脇)	61回	H25(2013)卒	杉江 咲樹 (高山)
39回	H03(1991)卒	亀永 辰之 (榊原)	62回	H26(2014)卒	岩井 彬穂 (清家)
40回	H04(1992)卒	寺嶋 直美 (岩崎)	63回	H27(2015)卒	金沢 輝 (馬)
		赤川 浩一 (萩野)	64回	H28(2016)卒	
		堺 広光 (小原)	65回	H29(2017)卒	長沖 賢志 (横山)
41回	H05(1993)卒	金瀬 正志 (古田)			清水 雅文 (八百)
		牧山 貴英 (武脇)	66回	H30(2018)卒	
42回	H06(1994)卒	東田 勇秀 (中藤)	67回	H31(2019)卒	堀川潤一郎 (古川)
43回	H07(1995)卒	手崎 裕之 (山本)	68回	R02(2020)卒	青木 佑司 (眞部)
44回	H08(1996)卒	小島 雅史 (飯野)			中田 雛子 (伊藤)
		杉原 英樹 (小原)	69回	R03(2021)卒	吉田 未央 (龍)
45回	H09(1997)卒	()			末石 航也 (中村)
46回	H10(1998)卒	村田 英久 (小原)	70回	R04(2022)卒	井澤 彩斗 (龍)
47回	H11(1999)卒	大嶋 敬右 (田中)	71回	R05(2023)卒	
		上田亜希子 (榊原)	短2回	S38(1963)卒	稲垣 喜夫 (田村)
48回	H12(2000)卒	川畑 雄史 (田中)	短3回	S39(1964)卒	高田 政公 (飯田)
49回	H13(2001)卒	沖 よし子 (今村)	短6回	S42(1967)卒	大垣 輝夫
		小笠原史明 (中村)	短8回	S44(1969)卒	松沢 一郎 (藤原)
50回	H14(2002)卒	宮崎 達也 (内田)	短9回	S45(1970)卒	河原 憲行
51回	H15(2003)卒	花岡 秀樹 (高山)	短11回	S47(1972)卒	重松 文治
52回	H16(2004)卒	黒崎 正 (小倉)	短13回	S49(1974)卒	嶋田 茂晴 (高橋)
53回	H17(2005)卒	開坂 哲也 (増田)	短16回	S52(1977)卒	浦田 竹昭 (榊原)
		川崎 理恵 (中村)			志村 幸光 (岡本)
54回	H18(2006)卒	重原佐千子 (鈴木)			中保 仁志 (岡本)
55回	H19(2007)卒	能登 幸美 (清家)	短24回	S60(1985)卒	山崎 宗良 (榊原)
56回	H20(2008)卒		院20回	H24(2012)卒	荻布 彦 (内田)

100周年記念事業実行委員の皆さんのお名前 (部会員については随時新規加入)

百周年記念事業

卒回	卒年	お名前 (ゼミ名)	卒回	卒年	お名前 (ゼミ名)
8回	S35年卒	中尾 哲雄 (新田)			鶴瀬 初弘 (丹羽)
14回	S41年卒	四津井宏至 (中村)			福井 直樹 (新田)
17回	S44年卒	上埜 進 (山崎)	30回	S57年卒	伊野 伸英 (清家)
18回	S45年卒	遠藤 敏之 (瀬岡)			伍嶋二美男 (丹羽)
		宮地 秀明 (菅原)			(越嶺会会長)
19回	S46年卒	奥 清一 (植村)		新任	麻生 成俊 (新田)
		(東北支部長)			桑原 幹也 (新田)
20回	S47年卒	舟木 幸雄 (岩淵)			山田 吉晴 (丹羽)
		(福井支部長)	31回	S58年卒	舟崎 友晶 (山崎)
		寺林 敏 (友杉)	32回	S59年卒	竹野 博和 (吉原)
21回	S48年卒	小竹 茂樹 (大谷)		新任	石井 幸治 (吉原)
		釜谷 春雄 (吉原)			森 浩一 (小島)
		澤合 文雄 (菅原)			(石川支部長)
		橋本 洋二 (野崎)			森永 利宏 (田中)
		米原 俊孝 (吉原)	33回	S60年卒	福田 直之 (吉原)
22回	S49年卒	鳥居由美子 (吉原)	34回	S61年卒	木村 温子 (吉原)
		杉森 聡 (山崎)			崎 安宏 (澤野)
		三宅 博 (吉原)			土屋 誠 (坂口)
		(関西支部長)			長津 輝彦 (中山)
		中村 昌弘 (菅原)			松本 智広 (中藤)
		(東海支部長)			丸杉 輝 (吉原)
23回	S50年卒	帯原 隆 (小松)			山瀬 孝 (萩野)
24回	S51年卒	藺守 貴弘 (新田)			山田 勉 (伊藤)
		増岡 伸一 (山口)	35回	S62年卒	岡本 武 (森蘭)
25回	S52年卒	飯塚 修 (山崎)	36回	S63年卒	浦田 純一 (大野)
		(関東越嶺会長)			川端 宏典 (丹羽)
		布目 大剛 (植村)			杉本 正人 (棚田)
26回	S53年卒	堀田 正之 (山口)	37回	H01(1989)卒	大西 哲憲 (小原)
27回	S54年卒	小林 武人 (香川)		新任	竹内 博文 (吉原)
		吉野 哲哉 (竹田)			谷畑 滋英 (古田)
28回	S55年卒	碓井 光一 (吉原)	38回	H02(1990)卒	
29回	S56年卒	宮村 樹 (丹羽)		新任	加藤 健 (萩野)

越嶺随想—翻訳本を読み比べる愉しみ (3) 杉浦吉治 (学部14回)

れぞれの国が、他国との交渉の場で遵守の義務があると考えている旨、公表したり主張したりするたぐいの規則への配慮は、たんなる口実や表明以上のものではないことが多い。最低限の関心しかもたず、ごくささいな挑発しか受けないため、羞恥心や良心の咎めも受けず、我々は、日々このような規則が潜り抜けられたり、直接侵犯されたりするのを黙認する。それぞれの国は、ある国の拡大や肥大化に、従属を余儀なくされると予感したり、その気配があると想像したりしているのであって、国民的偏見というさもしい原動力が、我々自身の愛国心という高貴なものにもとづくこと、これはけっして珍しいことではない。

<村井章子・北川知子 訳本>

見出し；第6部 徳の性格について

第2篇 個人の性格のうち他人の幸福に関わる面について

第2章 私たちが善行を行う社会に関して自然が示した序列について

本文； 私たちは祖国を愛するあまり、近隣国の繁栄や拡大には悪意のこもった羨望と嫉妬の視線を向けやすい。隣接する独立国同士は、紛争を解決してくれる上位機関を持たない場合、互いに警戒心と懐疑心を抱く。どの国も隣国に正義をほとんど期待せず、自らも隣国の処遇にその程度の正義しか適用しようとしな^い。国際法とは、つまりは独立国が相互の問題解決を図るうえで遵守すべきだと公言する規則、あるいはそう考えるふりをしている規則であって、この規則の遵守は往々にして口先だけ、形だけである。これらの規則が、些末な利益や些細な挑発を理由も恥も反省もなくすり抜けられ破られているのを、私たちは毎日のように目にする。どの国の国民も、近隣国が勢力を伸張すると、自国が征服された姿を予見し妄想するもので、かくして祖国愛という気高い行動原理の上に国民的偏見という卑劣な原理が打ち立てられることになりやすい。

見出し第二(2)篇 “Of the character of the individual, so far as it can affect the happiness of other people.”を、水田が「幸福に作用しうるかぎりでの、個人の性格」、高は「影響を及ぼしうるかぎりで見えた個人の特徴」とし、村井・北川は「個人の性格のうち他人の幸福に関わる面」と、三者三様であるが、村井・北川は意識ではあるが読みやすい。“so far as it can affect”を直訳するとどこもなく感ずるからだ。

次の見出し第二(2)章 “Of order in which Societies are by nature recommended to our Beneficence.”は、水田が「諸社会が自然によって、われわれの慈恵にゆだねられる、その順序について」、高は「そもそも社会が我々の善行に委ねられる道理について」、村井・北川は「私たちが善行を行う社会に関して自然が示した序列について」と訳している。本文を読むと理解できるが、ここでは“order”は、あとに“Societies”と“nature”がくれば「自然にゆだねられた社会の道理(規律または秩序)」が妥当であろう。ここでは高の訳が分かり易い。また、“Societies”が複数形だからといって諸社会と訳すこともあるまい。

次に本文だが、“The love of our own nation”を、水田は「われわれ自身の国民に

母校だより

教員の異動

訃報

武暢夫先生

二〇二三年七月三日逝去された。享年九三。

一九五九年一月一日着任。

一九九五年三月三十一日定年退職。三六年三か月ご在職。

(二二頁に「お別れの会」記事)

伊藤司先生

(南山大学法学部教授)

二〇二三年九月九日急逝された。享年五八。

一九九四年四月一日着任。

二〇〇二年三月三十一日、南山大学法学部へ転出。

新任

(二〇二三年十月一日付)



井坂友紀(いさか・ともり)

准教授

担当 当…西洋経済史

最終学歴…中央大学大学院商

学研究科 博士(経済学)

前 職…富山短期大学

生 年…一九七六年一月

出身地…神奈川県鎌倉市

ひとこと…

私は二年前に関東圏からこちらに転居してきましたが、富山には非常に馴染みがあります。妻の実家が射水市にあり、新幹線が開通するずっと前から何度も足を運んできたからです。茹でたてのホタルイカ、山菜の昆布締め、そして「林」(純米酒)を初めて口にした時の衝撃は今でも忘れられません。

私の専門は経済史、経済学史です。周知のように資本主義確立期のイギリスでは農地集積の過程で多くの人々が土地から追い出され、都市への流入や移民を余儀なくされました。当時の経済学は基本的には生産性向上の観点からこうした動きを正当化しますが、「生まれた地に生きる権利」は誰もが有する自然権であるとして、鋭い経済学批判を展開した者たちが存在しました。「市場の言葉」で現状肯定を行う経済学を「権利の言葉」によって批判したこれらの(マイナーな)経済思想家た

ちについて、現在研究を進めています。

慣れ親しんだこの富山の地で教育研究に従事できることの幸せを噛みしめながら、精一杯頑張っていきたいと思えます。皆様どうぞよろしくお願いいたします。



今井雄一(いまい・ゆういち)

助教

所属学科・講座…

経済学科ミクロ経済学

最終学歴…セントルイス・ワシントン大学大学院経済学

研究科 博士(経済学)

生 年…一九九一年十二月

出身地…京都府(相楽郡)

ひとこと…

着任前は、アメリカ・セントルイスで大学院生をしておりました。日本に帰国し、富山大学にて教育・研究を通して貢献する機会を頂けたことが大変嬉しく、感謝しております。

ミクロ経済学を応用した都市や交通の分析に興味があり、

特に不確実性が居住地選択に与える影響などを研究しています。たとえば、子どもが通学することになる学校がその子に合ったものであるかは、実際に通学を始めるまではわかりません。その地域が安全に感じられるかどうか、居住してしばらく経つまでは完全にはわかりません。このような不確実性は、人々が現在住んでいる場所からあまり移動したくないと思う要因になると考えられます。

富山県では、富山市のライトレールによるコンパクトシティの実現や、城端スマートインターチェンジなど、都市・交通政策の議論が盛んな印象があります。着任してまだ日は浅いですが、すぐ素敵な街だと感じています。研究者としても、住民としても、これから富山のことを知りたいと思います。微力ながら富山大学経済学部にご貢献できるよう尽力する所存ですので、これからどうぞよろしくお願い致します。

退職

二〇二三年七月七日

雨宮洋美・准教授

転出

二〇二三年八月三十一日
岩本 学・准教授
南山大学法学部へ

学生の活動

学生の論文誌「ESTUD

IO」復刊第十五号(二〇二三年三月刊)に載った「富山県の人口減少に向けた課題と取り組みー若年女性と産業構造との関連を中心にー」(矢島ゼミ 黒岩海斗、水馬優花、宝田梨沙)の論文が、北陸経済研究所の機関紙「北陸経済研究」二〇二三年十二月号に掲載されることになった。

また、十一月二二日(水)富山商工会議所で、三人が記者会見して提言した。その様子はチューリップTVが夕方六時のニュースで放送し、富山TVでもWebサイトに動画が載った。

また、翌二三日の富山新聞でも報じられた。

矢島先生コメント

本論文では富山県庁や経済同友会などへのインタビュをもとに富山県の若年女性の

流出対策を考察しています。学生論文が学外の雑誌に掲載されることはあまりないことですが、最近富山県内で若年女性に焦点を当てた取り組みが真剣に検討されており、時宜を得た研究成果としてこの度の転載となりました。ぜひご一読ください。

越嶺会総会報告

令和五年十月十五日(日) 正午
カナルパークホテル富山

来年の百周年記念大会の時間に合わせ、日曜日の昼に開催した。秋たけなわであり、地域や学校行事等が重なり、出席できない方も多かった。重原佐千子さん(五四回)の司会で、開会、黙とうを捧げた。



伍嶋会長



中尾最高顧問

伍嶋会長の開会挨拶、中尾最高顧問の挨拶があり、森口経済学部長の経済学部改組改革について、説明・挨拶、ご出席



森口学部長



本間経済学科長

の本間哲志経済学科長の紹介の後堀田副会長を総会議長に議事を進めた。決算予算を承認の後、伍嶋会長が百周年記念事業の進捗状況や今後の方向について説明し了解を求め、拍手で承認した。その後、現役学生の研究発表を聴き、経済学部生二名を含む四名による「富山大学吹奏楽団」サックス四重奏を楽しんだ。



清水日向氏

研究発表は清水日向氏(堀江ゼミ四年)の、廃棄子製品の回収輸送、廃棄物処理、多国間規制・監視等に関する「日韓EPAマネジメントから考える北東アジアの未来」と題するもので、質問も出て理解が深まった。演奏も、一五〇名余



一五〇名余



富山大学吹奏楽団サックス四重奏

の団員がいる、連続一三回全国大会出場を果たしている、施設を訪ねて地域貢献にも励んでいるとの楽団の紹介から、楽器の説明、定期演奏会の宣伝まで、さらにアンコールにも応えてくれて和やかな雰囲気になった。

(16頁に続く)

越嶺会 決算表 (令和4年(2022)年4月1日～令和5(2023)年3月31日)

1.一般会計

単位:円

収 入 の 部	決算額	支 出 の 部	決算額	備 考
前年度繰越金	1,428,068	事務費	425,521	会報92,93号発行 会報92,93号発行 郵便振替 専任事務局員給与等 正副会長会議等 5万+R3年度新入会員数×100円 事務費PC入替
入会金・終身会費	6,040,000	通信費	2,817,378	
總會等懇親会費	321,500	印刷費	1,553,200	
会報発行協力金	935,500	旅費	263,895	
利息収入	10,264	総人会費	0	
利金	5,000	慶弔会費	535,669	
寄附金	20,000	卒業祝い会費	1,483,783	
		学生会費	75,698	
		同窓会費	12,832	
		支部補助金	0	
		支部連合会分担金	0	
		支部補助金	78,700	
		支部補助金	0	
		支部補助金	142,468	
		支部補助金	1,371,188	
合 計	8,760,332	合 計	8,760,332	

2.越嶺奨学基金会計

収 入 の 部	決算額	支 出 の 部	決算額	備 考
前年度繰越金	11,303	事業費	100,000	
利息収入	9,000	予備費	0	
越嶺奨学基金より	100,000	翌年度繰越	20,303	
合 計	120,303	合 計	120,303	

3.基金

監査年月日 令和5年 6 月 18 日

基 金 名	R4年3月31日	R4年4月1日
越嶺会基金	25,000,000	25,000,000
越嶺奨学基金	29,200,000	29,100,000
合 計	54,200,000	54,100,000

監査委員 金谷春雄
監査委員 飯村幸子

越嶺会 予算 (令和5年(2023)年4月1日～令和6(2024)年3月31日)

1.一般会計

単位:円

収 入 の 部	予算額	支 出 の 部	予算額	備 考
前年度繰越金	1,371,188	事務費	330,000	会報94,95号発行 会報94,95号発行 郵便振替 専任事務局員給与等 5万+R4年度新入会員数×100円
入会金・終身会費	6,000,000	通信費	2,900,000	
總會等懇親会費	420,000	印刷費	1,700,000	
会報発行協力金	300,000	旅費	300,000	
利息収入	15,000	総人会費	200,000	
利金	1,500,000	慶弔会費	700,000	
越嶺会基金より		卒業祝い会費	1,550,000	
		学生会費	50,000	
		同窓会費	15,000	
		支部補助金	1,400,000	
		支部連合会分担金	0	
		支部補助金	80,200	
		支部補助金	100,000	
		支部補助金	280,988	
合 計	9,606,188	合 計	9,606,188	

2.越嶺奨学基金会計

収 入 の 部	決算額	支 出 の 部	決算額	備 考
前年度繰越金	20,303	事業費	100,000	
利息収入	10,000	予備費	30,303	
越嶺奨学基金より	100,000	翌年度繰越		
合 計	130,303	合 計	130,303	

3.基金

基 金 名	R4年3月31日	R4年4月1日
越嶺会基金	25,000,000	23,500,000
越嶺奨学基金	29,100,000	29,000,000
合 計	54,100,000	52,500,000



若手会員の自己紹介と
中尾さんと共に「ふるさと」主唱

会長の報告や、富山で一八日から個展を開く竹沢さんの話を聞いた。また、八月の支部総会で支部長に就いたばかりの森浩一石川支部長も挨拶した。

最後は恒例の「ふるさと」合唱。若い会員四名が出てくれて一番から三番まで、中尾さん作詞の四番を中尾さん主唱で、全員で歌ってお開きとなった。

出席者

学部

五回 島倉敏夫 福田 明

八回 宮崎甚一 赤祖父清義

一六回 西倉 哲雄 同付添人

一七回 久郷隆行

二〇回 寺林 敏 釜谷春雄、谷 和夫

二二回 橋本洋二、本山信男 米原俊孝

二五回 梅本清一、大崎 隆 久々湊純二

二六回 杉森 聡、竹澤喜孝 竹部 巧

二五回 鳥居由美子 中島澄雄、帯原 隆

二六回 飯塚 修 堀田正之

二九回 鶴瀬初弘、宮村 樹

三〇回 麻生成俊、伊野伸英

三一回 寺西裕行、山田吉晴

三二回 舟崎友晶 竹野博和、森 浩一

三三回 森山真人、松本智広

三四回 山瀬 孝 杉本正人、深田清就

三五回 竹内博文、丸岡一浩

三六回 大波加肇、川崎信治

三七回 黒川 央、竹田達矢

三八回 殿村幸子 松田充生

三九回 赤川浩一 長谷川正人

四〇回 東田勇秀 手崎裕之

四一回 小島雅史 沖よし子

四二回 宮崎達也 重原佐千子

四三回 園部佑樹 牛島巧多、村上智哉

四四回 山田航大 末石航也

四五回 西田隼人 高田政公

四六回 浦田竹昭 大垣輝夫

四七回 福井幸博

二〇回 荻布 彦
三〇回 田形昌敏

森口毅彦経済学部長
本間哲志経済学科長
経済学部生 中井陽太
経済学部生 清水日向
人文学部生 鈴木真粋
経済学部生 倉田美空
人文学部生 加藤美沙
経済学部生 高野 凌

各支部だより

石川支部総会

日時 八月四日(金)

午後六時三〇分

会場 金沢ニューブランド
ホテル銀扇

会員三十六名と森口毅彦経済学部長、伍島二美男越嶺会長をお招きして開催しました。

伍嶋会長からは来年の経済学部百周年記念事業について、森口学部長からは三学科を一学科にするなどの学部改組についてそれぞれお話がありました。現役学生とのコミュニケーションが増えることで発展が期待されます。

役員改選では藺守貴弘さんが退任され、副支部長の森浩一さんが支部長に選出されました。

懇親会は、堀田正之越嶺会副会長のご発声で乾杯し、コロナで中断後の久しぶりの再会になつかしい顔ぶれと歓談の輪ができていました。
森浩一新支部長からは、来年度の総会は芸妓さんと呼んで盛大に開催したいとの話もありました。



石川総会記念写真

りました。皆様お誘い合わせのうえ多数の参加をお待ちしています。

役員一覧

支部長

森 浩一 (三二回)

副支部長

里見浩次郎 (三一回)

事務局長

西田 恵介 (四一回)

事務局次長

高島 禎郁 (五三回)

出席者

山田 康浩 (四八回)

来賓 森口毅彦経済学部長

伍島二美男越嶺会長

会員

七回 中西 一順

八回 多島 正明

十一回 藤田 長悦

十四回 岡田 茂

十七回 清水 和雄

十九回 嶋谷潤一郎

二四回 福田 幸進

二六回 藺守 貴弘

二九回 堀田 正之

三〇回 福井 幸博

三一回 北山 光弘

三二回 里見宏次郎

三三回 森 浩一

三六回 中本 秀史

三七回 酒井 雄史

三九回 三傳 敏一
堀 琢也
今井 信也
田村 創
安嶋 是晴
村本 満
南 和花
吉住美弥子
西田 恵介
杉原 秀俊
堂岸 恵子
吉崎 香里
赤井 陽介
山田 康浩
高島 禎郁
石井 宏輝
中本 篤志
小坂 雛子

四〇回
四一回
四二回
四四回
四四回
四八回
五三回
五四回
六五回

原稿募集

支部総会、支部の各種行事・集まりの様子をお知らせください。
短信で結構です。
越嶺会員の小人数の会合など、短く知らせてもらえば幸いです。

越嶺会事務局

東海支部総会・懇親会 報告

令和五年九月一六日(土)正午から東京第一ホテル錦にて、四年ぶりに開催。来賓には富山より、森口経済学部長、竹野越嶺会副会長をお招きし、参加総数五四名と前回より大幅増加となりました。

総会では会計、新役員体制が原案通り承認された。

懇親会では、最高齢の熊谷隆夫さんの発声で乾杯し、初参加の方を中心に自己紹介。尾関副支部長による「富山と大学今昔物語＋大学100周年」のスライド発表。学部二十九回卒の加藤隆久さんが理事長を務める中部フィルハーモニー交響楽団による弦楽四重奏によるミニコンサート。最後に弦楽四重奏を伴奏にして「ふるさと」を全員で合唱し非常に盛り上がり旧交を温めることが出来ました。

十二月三日のゴルフコンペと、百周年での東海支部、本会での再会を誓いお開きとなりました。



四重奏

―役員―

支部長 中村昌弘 (二二回)

副支部長(新設) 川瀬基弘 (二七回)

会計 尾関桂子 (三四回)

倉地博之 (四七回)

置田正浩 (三二回)

倉地博之 (四七回)

服部智政 (四五回)

ゴルフ部会長 白石憲生 (三六回)

幹事(無任所) 細江克秀 (二六回)

平松秀康 (三一回)

中島弘人 (三一回)

清 信裕 (二三回)

馬場幸博 (二七回)

顧問

会員出席者(五二名)

熊谷隆夫、下平邦弘

杉浦吉治

磯井幹彦

稲村敏夫

石橋高博

梅田利勝

中村昌弘

日比野総

石原昇治

清 信裕

藤田龍造

成田順一

細江克秀

大野昌伸

馬場幸博

井波 隆

加藤隆久

福井和彦

岩瀬正昭

中島弘人

置田正浩

尾関桂子

橋本茂雄

木村吉誠

杉山富保

白石憲生

野田貴文

石田 尚

新川兼史

近藤 秀

服部智政

杉本英雄

四七回 倉地博之、近澤 保
 五一回 吉野雅人
 五六回 蜂谷将太
 六四回 池田春朗
 人間発達科学部 青山直人
 (中島弘人(三一回)記)

二〇二三年(令和五年)度

関東越嶺会総会

九月三〇日(土)正午より東京
 富山会館(文京区)にて開催
 され、賑やかに旧交を温めま
 した。前回は二〇一九年九月
 七日でしたので、四年ぶり
 でした。コロナ禍により開催
 ができず、この間は関東会報
 より、総会議事承認を得て
 しました。

司会進行を林明宏代表幹事
 (学部28)が務め、黙祷、来賓
 紹介に続いて、まず飯塚修会
 長(学部25)が、来賓・会員へ
 の出席御礼と、コロナ禍で活
 動ができなかったが、今後は
 より活発に活動をしていく、



飯塚会長

多くの会員の
 支援をお願い
 したいと開会
 の挨拶しまし
 た。



山瀬副会長

岩内教授

来賓の山瀬
 孝越嶺会本部
 副会長(学部
 34)は、いよ
 いよ来年十月
 に学部創立百
 周年を迎える
 記念式典にぜ
 ひ参加願いた
 い、また百周
 年事業の寄付金のご協力をよ
 るしく、と挨拶されました。

岩内秀徳経済学部教授からは、
 今後の経済学部の取組み課題
 Ⅱ経済経営学科に一本化し、
 データサイエンス等の四つの
 プログラムに取り組む学部の
 現状・課題の説明がありまし
 た。

続いて二〇二二年度活動報
 告・収支報告・監査報告、二
 〇二三年度事業計画・収支計
 画を、林代表幹事、柿本浩和
 会計(学部31)、村山修監事
 (学部25)がそれぞれ報告・提
 案して、全て承認されました。
 今回は役員の改選等はありません
 でした。

来賓挨拶では、東豊昭東京
 富山県人会連合会事務局長よ
 り、関東越嶺会総会が再開さ
 れた祝辞を頂戴しました。東
 事務局長は、連合会の現在の



会場風景

活動内容等を紹介されました。
 第二部の懇親会は、初参加
 者二名Ⅱ有沢正道会員(学部
 18)、長岡恵子会員(学部58)
 の紹介からのスタートとなり
 ました。塚光雄副会長(学部
 11)の乾杯発声で開始されま
 した。塚副会長は、年寄りは
 百周年へのお金の支援はでき
 ないが、心の支援は充分でき
 ると、会場を笑わせました。
 各テーブルに富山名産の鱒寿

司や富山の銘酒(立山・羽根
 屋他)が並べられ、先輩・同
 期・後輩の賑やかな歓談が始
 まりました。

今回は、平尾外志雄仰岳会
 関東支部長(工学部)と高瀬
 明子富山薬窓会首都圏支部長
 (薬学部)より来賓スピーチ
 を頂戴しました。両学部同窓
 会とは、五福会(十二月十三
 日開催予定)をはじめ、交流
 をより深めていきます。

楽しい懇親会もあつと言う
 間に時間が経過し、最後に永
 井雅律副会長(学部21)が閉
 会の挨拶をして、盛会裏にお
 開きとなりました。

当日の出席者は、次の通り。
 来賓

岩内秀徳・経済学部評議員
 山瀬 孝・越嶺会副会長、
 東 豊昭・東京富山県人会
 連合会事務局長

平尾外志雄・

仰岳会関東支部長(工学部)
 高瀬明子・

薬窓会首都圏支部長(薬学部)
 報道

北日本新聞社／鶴木義直
 富山県人社／高島美奈子

会員

学部
 五回 浦嶋 稔

八回 小川 豊・同伴
小川 実、高土哲夫
九回 宮前喜久次
塚 光雄、石出宗秀
十一回 渡邊慶孝
十四回 福田哲郎、野村邦雄
十八回 長谷川健郎

十九回 今井修一
二十回 江藤雅雄
二一回 永井雅律、江藤隆典
二二回 竹澤喜孝
二三回 平方睦男
二四回 村山 修、飯塚 修
二八回 林 明宏、吉田正克
三一回 森 秀貴
三二回 柿本浩和
三七回 山本康二
五七回 神田将司
五八回 長岡恵子
短大 立田征夫
五回 (林明宏 記)

福井支部総会 十月十四日(土)

令和二年に開催を予定して
いましたが中止に。それから
三年、久しぶりの再開ができ
ました。きっかけは、舟木会
長と中嶋氏の「今年こそやる
ぞ！」の強い決意でした。

会場は事務局イチオシ、福
井駅近くのお店で、刺身、お
酒やお肉も美味しい、「かん
さち福井駅前店」でした。



自己紹介は、一人一人が学
生時代などを思い出し熱弁を
ふるい、ちよつと長くなりま
したね。

特に大学正面の交番に金網
があつたこと、秀かんやカレ
ー亭などの飲食店、大学祭で
池に落ちた、落とされた話、
サークルや勉強の話などさま
ざまでしたね。

年齢層は三〇代から七〇代、
大学・銀行・会社員・自営業

など幅広く、ちよつとした異
業種交流でした。普段の業務
や職場では会えない人間関係
ができて、特に介護事業や銀
行・注文住宅など、業種・業
界を超えた話も楽しく、花が
咲きました。

「飲み会自体が久しぶりの中、
福井支部の方々にも四年ぶり
に会えました。何事も通常通
り行えるとうい」
「久しぶりの開催で、人数は
少な目でしたが、新しく参加
された方もあり楽しいひと時
でした。」

「四年間のブランクを忘れる
楽しさでした。」

「舟木会長始め皆さんフラン
クで温かく、楽しくも中身の
濃い時間でした。」

「皆様の楽しそうな笑顔を見
て開催できてよかったです」
「年に一度くらい大学時代の
青春の熱い志を思い出してみ
るのも良いものです」

今回の出欠確認はLINE
が主で、回答率が高かったで
す。郵送やメールも使用しまし
た。今後はLINEグループ
にお誘いするなどしてさらな
る活性化を目指しています。
今回も、若手や女性向けに

参加費を半額にしました。
最後に、次年度に舟木会長
は交代し、後任は平野副会長
の予定です。

今後開催回数を増やすな
り、参加しやすい雰囲気づく
りをして、幅広い年齢層に参
加いただき卒業後の絆を強め
て行くよう、努力して参りま
す。平野副会長からは「北陸
新幹線が、福井へ延伸となる
来年は、もっと盛り上げてい
きたい」とコメント頂いてい
ます。

事務局より 今回ホームペ
ージを開設しました。

<https://etsureikai-fukui.jimdofee.com/>

参加者一覧

十五回 重久 修造
二十回 舟木 幸雄
二一回 白崎 章
二六回 川口謙一郎
二九回 平野 恵次
三〇回 中嶋 浩顕
三五回 乙部 勇樹
三七回 梶間日出治
三八回 水野 憲治
四五回 林 智之
五七回 河上 佳史
六二回 吉田 涼

第二〇回東北支部総会

日時 令和五年十月十五日(日)

午後三時三〇分

会場 山王山温泉「瑞泉郷」
(岩手県一関市)

東北六県をエリアとする当支部には、二八〇名の方がおられます、コロナで延期となり五年ぶりの開催でしたが、些か寂しい五名の出席での開催となりました。

参加者

高橋 邦文 (学部11回)
博多 義雄 (学部13回)
奥 清一 (学部19回)
尾山 和之 (学部24回)
鈴木 政司 (学部29回)

総会では、奥支部長から「今回は、五年も空いてしまいが、今まで未開催の岩手県で開催することができました。質の高いお湯に浸ってゆつたりと過ごしていただき、今後の支部運営の活性化について考えていきたいと思います。」との挨拶がありました。続いて鈴木事務局長の司会進行で「議長選出」「会計報告」「監査報告」に続き、「役員選出」で東北支部役員五名再任と新任一名の提案があり、全会一致で決定いたしました。

「支部役員」
二〇二三年十月十五日

支部長 奥 清一 (学部十九回)
副支部長 加藤道雄 (学部十回)
尾山和之 (学部二十四回)
会計幹事 博多義雄 (学部一三回)
幹 事 (新任) 佐藤 徹 (学部三三回)
事務局長 鈴木政司 (学部二九回)

その後、温泉入浴を楽しんでから十八時より奥支部長の乾杯で懇親会に入りました。

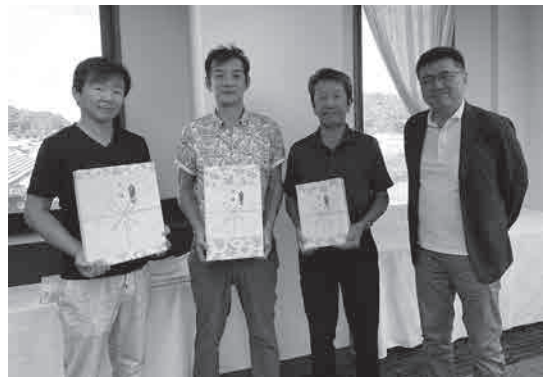
近況報告を交え、美味しい前沢牛鉄板焼とフカヒレ鍋をいただきましたながら楽しく歓談しました。

次回は、二年後の二〇二五年度の開催となります。一人でも多くの東北支部会員の方々が参加いただけるように、広く会員のご意見を伺うことを決めて、最後に尾山副支部長の中締めで閉会となりました。

第三回越嶺会グリーン会
ゴルフコンペ開催

八月一九日(土)、太閤山カントリークラブ(富山県射水市平野一番地)で参加者三四名が親睦を図りながらプレーを愉しみました。昨年の大雨によるハーフ中止とは打って変わって、三五℃を超える、今年二二日目の猛暑日となる中で、全員無事ホールアウトすることができました。

表彰式では、越嶺会グリーン会 土屋会長(三四回)からの開会挨拶、越嶺会最高顧問 中尾先輩(八回)から大学の近況報告、今回ゴルフコンペの講評をいただきました。



その後、初参加の方から自己紹介や近況報告をいただきました。

結果は、椿直之さん(三五回)がOUT48・IN47、GROSS95、NET72・2で優勝され、準優勝に浅井清志さん(三四回)、三位は本田泰郎さん(四一回)が受賞されました。

来年は経済学部創立百周年記念ゴルフコンペとして、二〇二四年一〇月一四日(月・祝)に同クラブにて開催を予定しております。一〇月一三日(日)の記念式典・祝賀会の翌

日となりますので、今年以上に盛会に開催いたしたいと思ひます。お一人でも多くの会員の皆さまのご参加を、そして富山以外の会員の皆さまのご参加をお待ちしております。
(越嶺会グリーン会幹事
金瀬正志(学部41回)記)

第九回越嶺一四会

元気で富山に集う

十四回生一六五名は一九六六年(昭和四一年)三月、五福キャンパスを巣立ちました。その後、二〇〇四年九月の学部創立八〇周年記念行事に合わせ、高岡市雨晴で第一回同期会を開催。以後、「越嶺一四会」の名で東海、関東、富山の幹事持ち回りで二年毎に集いを持つてきました。

今回の第九回の集いは二〇二〇年開催の予定でしたが、コロナ禍の關係で十月四日の集いになりました。富山市「高志会館」での「越嶺一四会」には八十路を迎えた二二名が参加し、久しぶりに旧交を温め合いました。

長く続いた会ですが、八〇歳という節目を迎えたこともあり、「越嶺一四会」全体の

集いは今回をもって区切りと致しました。なお、これからも、地域・ゼミ・有志でのつながりを持つていくこととなります。また、来年十月の学部創立百周年記念行事に合わせ、有志の式典出席、歓談の機会が待たれます。



参加者二二名

石田五十六	片岡英夫
熊谷隆夫	杉浦吉治
杉本進	得永丕
内藤克昭	中川寛
中土盛曠	福岡隆
福田修策	福田隆一
藤岡正紀	藤村隆巨
細木文夫	水野俊雄
宮坂穎一	山岸憲雄
四津井宏至	米島晃
渡辺勝海	渡邊慶孝

(渡辺勝海記)

会員広場

竹澤喜孝氏(学部二二回)が
「古希を越えて その歩み展」
富山市で開催

四〇歳から描いてきた絵の集大成として、中学の恩師と級友の賛助出品を得てコラボ開催。準備から会場当番に友人たちの多大の協力があつたことで、富山で開いてよかったと感謝していた。

また、定年後、なり手のない二七〇〇世帯の加賀五四自治会長や民生委員も引き受

け「孤軍奮闘」している(笑)
とのことであつた。



同期の長谷川修氏と

増井秀次氏(学部二六回)が 再度「鑑定団」に出演

お題は「柳の下の一匹目のどじょう」。名古屋では九月三日(日)放送された。

昨二〇二二年末の初めての出演では高額鑑定を得たので、局から「二匹目」としてもう一度と話が合ったとのこと。『華麗なる明治七宝』を出版した増井さんが、七宝以外の物で挑戦したその鑑定結果は・・・。

人間、欲を出さず本業を行くのが肝心かと(本人弁)。

重原佐千子さん(学部五四回)が「がっちりマンデー」に出演

十一月十二日朝の「がっちりマンデー」で、カシオが電卓のテンキー面に3度傾斜を付けたことで打ちやすくなり、売り上げ急増がっちり儲かっていますと、電卓日本一と紹介されて重原さんがアピールした。

重原さんはスタジオにも入って司会の加藤浩次さんのトークを直接聞いてその迫力がすごかったと感想を語った。

体育会ヨット部への活動支援のお願い

創部から60年、OBと現役の悲願だった全日本インカレに、昨年度団体戦(琵琶湖)に初出場。今年度も予選を勝ち抜き、全日本インカレ団体戦(福岡)に出場することが決定。

現在、更なる高み(団体戦10位以内、国公立大学3位以内)を目指して練習中。

ただ、安全確保の救助艇が老朽化しており、買い替えが必要になってきています。

①OB会の支援(直近2年)

2022年度: スナイプ艇一艇(240万円)を富山大学へ寄贈。

遠征120万円補助、他OB会より25万円支援。

2023年度: 470艇一艇(280万円)を富山大学へ寄贈。

遠征費60万円を補助、他OB会より25万円支援

②活動支援のお願い

課外活動支援基金に寄附をお願いします。(老朽化したレスキューボート買い替え購入資金)

- ・ご意見欄に「ヨット部指定寄附」と記載願います。寄附金は税制上の優遇措置が受けられます。
- ・ヨット部に寄附していただいた個人、団体様名を購入予定のレスキューボートの銘板に記載させていただきます(希望される方)。
- ・ヨット部にご縁の無かった方も、私たちを育てていただいた富山大学への恩返し、社会貢献として、ご検討くださいますよう、お願いいたします。

富山大学のHPから https://www.u-toyama.ac.jp/studentsupport/extra-activities/extra-activities_kikin/

富山大学体育会ヨット部OB会会長 荒木正一(経済28回生)

関西支部長 井上敏宏(経済35回生)



卒業論文を お返しします

返却ご希望の方は事務局までご連絡ください。(メール、FAX、手紙、はがき、電話など)また、見当たらないものがあり、ご希望に添えない場合があることをご理解ください。

- ・送料はご負担ください。受領書返送の際に、切手でお送りください。
- ・短大の分はありません。
- ・最近の方は、PC入力です。既に返却済みかと思えます。

これは任意ですが、卒業論文を受け取られた感想・感慨を余白にお書きください。

ご了解を得たうえで会報に掲載したいと思えます。

会員の訃報

謹んでお悔やみ申し上げます

卒業回	お名前	ご命日	卒業回	お名前	ご命日
高商18回	林 登美雄	令 5.3.6	学部11回	田村 収昌	令 5.7.27
高商19回	榎田 邦俊	令 5.7.25		清水 道夫	令 4.5.7
学部教員	武 暢夫	令 5.7.3		伊藤 哲夫	令 4.8.1
	伊藤 司	令 5.9.9		井上 喜文	令 5.8.24
学部2回	明 要人	令 5.8.30	学部12回	地藏 彰	令 3.2
	大浦 哲夫	令 5.8.16		中川 一紀	令 5.7.22
学部3回	村澤 晃	令 5.10.20		稲垣 秀夫	令 5.8.4
学部4回	石井 周弘	令 3.7.27	学部13回	岡崎 圭史	令 4.1.18
	澤田 武彬	令 4.6.13		元安 利昭	令 5.2.26
	久世 道雄	令 4.5.20	学部18回	河村登志弘	令 3.1.5
学部5回	関 健三	令 5.9.18		菅原 善穂	令 4.9.2
学部6回	柚木 一夫	令 4.8.25	学部20回	笹倉 史成	令 5.6.25
学部9回	瀬尾 達也	令 4.10.22	学部31回	小林 仁彦	令 5.7.26
学部10回	渡辺 利雄	令 5.7.15	学部34回	今井 利行	令 3.9.29
	酒井 義章	令 5.4.29	学部49回	堀田 久未	令 4.9.8
	松澤 伸令	令 5.7.20	短大2回	石黒 治男	令 4.10.17
	向井 俊久	令 5.8.12			

ご冥福を祈ります

武暢夫先生お別れの会



二〇一四年九月 九〇周年祝賀会で「経済学部万才、越嶺会万才」を発声された。

武暢夫（たけ・のぶお）名誉教授は、令和五年七月三日、逝去されました。生前は、病氣一つされたとも聞いたことなく、享年九三の天寿を全うされました。

武家のご配慮によりお別れの会を設けていただくことになり、武ゼミ有志で世話人会をつくりお手伝いさせていただきました。

今年の異常な暑さが和らいできた十月十四日、セレモニーホール呉羽において、武家主催のお別れの会がしめやかに執り行われました。今や高齢となった武ゼミ卒業生二六名も全国から駆け付け、お住いの町内会の皆さんとともに別れを惜しみました。

お別れ会では、読経、焼香に続き、武ゼミ第一期生で世話人代表の酒井博氏が弔辞を読み上げ、最後に奥様から喪主ご挨拶をいただき閉式となりました。

このあと、酒井代表の発意により『武ゼミらしい最後の武ゼミOB会を開いてお別れしよう』と、先生の遺影を囲んで直会を開き、思い出を語り偲びました。

先生は京都大学を卒業後、昭和三四年に富山大学経済学部に赴任され、爾来西洋経済史の講座を担当されました。昭和六一年から六三年まで学部長、六三年から平成五年まで大学評議員を務められ、

平成七年に定年退官されました。

最終講義には、多くのゼミ卒業生が拝聴し、同日卒業生により催された退官記念パーティーには奥様ご同席でお祝いの思い出されます。

先生は退官後も、大学の委員として、三大学統合に尽力されるときも、統合後二〇〇四年四月一日から二〇〇五年九月三〇日まで「大学監事」も務められました。西洋経済史研究は終生続けられ、学究の徒の恩師でした。

先生にはゼミ生を卒業後も見守っていただきました。何よりも嬉しく有難かったことは、呉羽の地を終生の住みかとされ、いつでも先生にお会いできたことでした。

また、毎年の卒業生との旅行は数十年続き、正月二日はお宅を訪ねるのが恒例となり、奥様の手料理で楽しい時を無礼講で過ごし、先生には夜遅くまで私たちの話を聞いていただきました。本当に感謝の念に堪えません。

先生のその時々の一言は何ものにも代えがたいものでした。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

なお、お別れ会に寄せられた志は、世話人会発起主旨により、富山大学基金に寄付させていただきます。

武先生お別れの会
代表世話人…酒井 博
同世話人…竹内 武

世話人会

一三回 酒井 博、日野忠夫
一四回 熊谷隆夫、南 章

永田正忠、福田隆一
渡辺勝海

松田 弘、小西由郎
竹内 武、密澤有二

高田幹夫、佐野憲正
竹内正良

羽廣嘉一、氏 英資
中田眞一

岩尾 孝、角出憲明
四折保夫、判治章男

堀 和夫、本保喜紀
山木則夫、山崎 清

吉田和男
藤田龍造

二四回 石田由一、田中 裕
二五回 奥田泰三

二六回 (文責 中田眞一)

同窓会連合会関係

第十六回ホームカミングデー

二〇二三年十月十四日(土)
会場…芸術文化学部

長柄毅一芸術文化学部長の開会挨拶に続いて、斎藤学長の主催者挨拶と大学の現状と未来について、就任以来、一キャンパス間、学部間の壁をなくす、二、金沢大や熊本大と大学間連携を進めた、三、経済、理学部の学科一本化などの教育組織改革、四、研究推進を進めてきたと説明があった。

ウォーカビリティを推進するしくみづくりシンポジウムでは四人が講演された。ウォーカビリティとは、その地域の歩きやすさや、住民が徒歩で生活できる程度を表した指標で、土地の利用状況などから評定され、ウエルビーイングと共に、都市づくり、まちづくりに重視されるようになっていく。

最後に先進アルミニウム国際研究センターと芸術文化図書館、技藝院を見学した。



左は説明の上原雄史館長



芸術文化図書館



先進アルミニウム国際研究センター



富山大学基金だより

第 22 号
2023.11.1 発行

学生海外留学支援事業 留学体験記

経済学部経営学科 4年

石原 莞爾 さん



留学先 | カナダ

クエスト・ランゲージ・スタディーズ

この度は、富山大学の学生海外留学支援事業の奨学生としてご支援いただき、誠にありがとうございました。

私はカナダのトロントにて、約9か月間に渡り語学学習に励みました。この留学を通じて、語学力の向上とともに、その過程で数多くのかけがえのない経験を得ることができました。特に、語学学校で出会った外国人の友人と共に旅行に行ったこと、シェアハウスで外国人とともに過ごしたこと、教会でのボランティア活動に参加したことはとても刺激的で大きな財産となりました。

また、カナダで生活する人々の、互いの文化を尊重しともに共生するという、多文化社会としての価値観を垣間見ることができました。知り合いではなくても助け合う雰囲気は確立されており、私自身も、単調な英語で尋ねた際に、笑顔で丁寧な対応をしてくれたことがとても印象に残っています。

今後も語学の勉強に励みつつ、留学を通じて培った経験や学びを社会において役立てていけるような人材となるよう、日々精進していきたいと思っています。



語学学校にてメキシコ人クラスメイトの卒業を祝して



帰国前日に家の前でルームメイトと

学部1年次生短期海外派遣プログラム支援事業



毎日付きっきりでお世話をしてくれた現地学生、同室の富大生と一緒に滞在最後の夜撮影

人文学部人文学科 2年

塩原 真聡 さん



留学先 | マレーシア

トウンクアブドゥルラーマン大学

富山大学基金の短期海外派遣プログラム支援事業(2023年3月実施)に参加させていただきありがとうございました。私は、現地の人が話す生きた英語を学びたいと思いマレーシアに留学しました。日本ではできない現地の学生との交流から、大変親しくなり、今でもSNSなどで英語を使って毎日のようにやり取りしています。

また、留学で学んだ生きた英語を活かして、海外の研究に関心を持ったリ、海外の文献を読んだりするなど、いろいろなことに意欲をもって挑戦していきたいと思っています。

寄附者様ご芳名一覧 (令和5年4月～令和5年9月)

個人 (50音順・敬称略)

足立 雄一	五十嵐 修	泉 雅人	笠谷 均志	片岡 弘	犀藤 一枝	下敷領 強
竹村 樹里	武山 良三	遠山 和大	豊田 葉子	中山 和也	長谷川直樹	堀口 旺汰
前田 等	宮 一志	森口 毅彦	森山 健三	吉越 勝彦	和田 直也	(ほか公表辞退 24名)

企業・法人等

一般財団法人立仁会	富山大学生生活協同組合	北陸電力株式会社	(ほか公表辞退 1社)
-----------	-------------	----------	-------------

●寄附者のご芳名は五福キャンパス事務局棟玄関フロア及び富山大学基金ホームページでもご紹介しております。

寄附者のお声

卒業生

学生時代は大変お世話になり、
ありがとうございました。
今後も豊かな教育や研究活動が
行われますことを期待しています。

(Y.W)

教職員

コロナ禍で苦勞されている
学生への支援に繋がれば
幸いです。

(N.A)

在学生のご家族

息子がお世話になります。
来年からは大学院で
お世話になる予定です。
よろしく願います。

(Y.T)

富山大学トピックス

「課外活動支援基金」を新設！



課外活動施設の修繕費及び
課外活動全般の支援経費につ
いて継続的な確保を図るため、
「富山大学課外活動支援基金」
を立ち上げました。

「工学部基金」を新設！



工学部 80 周年を迎え、工学
部の教育・研究における環境
の整備や内容の充実による高
度なもののづくり人材の育成を
図るため「富山大学工学部基
金」を設置しました。

富山大学特定基金のご案内

富山大学基金は、本学が行う学生修学・教育研究等に係る各種
事業を支援する「一般寄附」のほかに、特定の目的・事業を支援
する「特定基金」を設置しています。

寄附の方法につきましては、「ゆうちょ・銀行振込」または「イ
ンターネットからのオンライン決済」をご利用ください。

- | | |
|----------|------------|
| ● 修学支援基金 | ● 研究等支援基金 |
| ● 医学部基金 | ● 課外活動支援基金 |
| ● 工学部基金 | |

詳しくはホームページをご覧ください。
▶ 富山大学基金ホームページ | 寄附の種類



富山大学基金の寄附受入状況

● 受入期間：令和5年4月～令和5年9月末

寄附の種類	寄附件数	寄附金額
富山大学基金(一般)	37 件	7,756,520 円
うちリサイクル募金	10 件	38,189 円
修学支援基金	24 件	386,000 円
研究等支援基金	4 件	50,000 円
合 計	65 件	8,192,520 円

ご寄附への謝意のご案内

一定額以上のご寄附をいただいた皆様方へ下記のように
謝意品をお渡ししています。

● 5万円以上
オリジナル扇子「百花繚乱」● 10万円以上
オリジナル扇子「連峰の輝き」

● 20万円～50万円 錫製品



詳しくはホームページをご覧ください。
▶ 富山大学基金ホームページ | 寄附者特典



富山大学、メルマガはじめました！



毎月、富山大学の
最新情報をお届けします

- 学長からのコメント
- 教育・研究情報
- イベント情報 …など

富山大学基金に関するお問い合わせ先

富山大学総務部総務課広報・基金室(基金担当)

〒930-8555 富山市五福 3190 Tel. 076-445-6178 Fax. 076-445-6063

E-mail: kikin@adm.u-toyama.ac.jp URL: <https://tomidaikikin.adm.u-toyama.ac.jp>

富山大学経済学部(旧高岡高商)創立

一〇〇周年記念大会

二〇二四(令和六)年

十月十三日(日)

午前十時 式典、学生発表など

午後一時 祝賀会

十四日(月・祝) ゴルフ大会(太閤山CC)

バスツアー

記念募金をお願いします。

一〇〇周年の大きな節目です。

奮ってご応募願います。

皆で盛り上げて一〇〇周年記念大会を迎え、

祝いたいものです。

住所変更通知欄 (越嶺会事務局 FAX:076-445-6419)

住所や姓名等に変更があった際はFAX等でお知らせ下さい。

お名前 _____ 昭、平、令 _____ 年卒 (第 _____ 回)

新住所 _____

新電話 _____

(差し支えなければメールアドレス _____)

新勤務先 _____

— 通信欄 —